

鈴鹿の風 すずかのかせ

VOL.
33

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌



ご挨拶 ～ALSをめぐる話題～

院長 久留 聡

新任医師の紹介

新規採用職員・転入職員紹介

新任者の紹介

鈴鹿病院NEWS

名誉院長の部屋「ライセンスと自動運転」

地域医療連携室だより

昭和・平成スポーツオタクコラム—番外編—



ご挨拶 ~ALSをめぐる話題~

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 院長 ^く久留 ^{さとし}聡

今年の3月にホーキング博士がお亡くなりになりました。「車椅子の物理学者」として有名であり、難病と闘いながら理論物理の分野で歴史的な業績を残されたことは皆様ご存知の通りです。その難病というのが筋萎縮性側索硬化症（Amyotrophic lateral sclerosis：ALS）です。全身の筋肉が侵されて動かなくなってしまう原因不明の難病です。2014年のアイスバケツチャレンジでこの病気のことをお知りになった方もみえるかもしれません。当院は昨年4月から三重県の難病拠点病院に指定されておりますが、ALSの患者様もたくさん入院されています。

近年ALSの研究は確実に進歩しています。この病気の成り立ちにはTDP43というタンパク質が関与していることが分かってきました。犯罪にたとえるなら重要参考人といった所でしょうか。事件の真相（病気の原因やメカニズム）を解明すべく厳しい取り調べ（研究）が続けられており、共犯者（関連する蛋白）もつぎつぎに浮かびあがってきています。基本的には孤発性（遺伝子

しない）の疾患ですが、一部に遺伝する場合もあって、その責任遺伝子も次々に同定されています。ちなみに同様に神経が変性する疾患であるパーキンソン病や多系統萎縮症ではαシヌクレインという蛋白が、進行性核上性麻痺や大脳基底核変性症ではタウ蛋白が、それぞれ重要参考人として捜査線上に浮上しています。

三重県の南部から和歌山県にかけての一部の地域には、古くからALSが多発することが知られており「紀伊ALS」と言われています。同じ地域には認知症をとともなうパーキンソン病（パーキンソン認知症複合）も多発しています。さらには、似たような病型がグアム島や西ニューギニアでも認められていて、何か特殊な風土病と考えられています。ミネラルの異常や食物由来の神経毒などさまざまな仮説が提唱されていますが未だに証明されていません。脳の病理を調べると、先ほど述べたTDP43、タウ蛋白、αシヌクレインといった妖しげな容疑者（変性蛋白）が複雑に関係する組織犯罪の様相を呈しています。

謎が謎を呼ぶ摩訶不思議な疾患です。鈴鹿医療科学大学の葛原教授や三重大学の小久保教授のグループは精力的にこの病気を研究されています。私自身も昨年の10月に葛原先生、小久保先生に同行して熊野の方までフィールドワークに行ってきました。微力ながら当院もこの病気の研究に貢献したいと思っています。

残念ながらALSに対する有効な治療法は多くありません。それでも、リルゾールという内服薬に加え、エダラボンという注射薬も認可されて使えるようになってきました。脳梗塞の治療に使われていたお薬です。また、初期の段階のリハビリにはロボットスーツ（「鈴鹿の風」前号参照）も保険適応になっています。現在ビタミンB12製剤のメコパラミン大量投与の治験（第Ⅲ相）も実施されていて期待が集まっています。「宇宙兄弟」という漫画の中でも、スペースシャトル内でALSの治療薬を開発する話が出てきて驚いたのですが、この病気に対する関心は高くなっていくようです。

第18回 生き生き健康講座

とき 平成30年6月20日(水) 13:30~15:00 (受付開始13:00)

ところ 国立病院機構鈴鹿病院 中央病棟 3階 プレイルーム

テーマ 知って得する豆知識「高齢者のリスク」

入場
無料

講演1 防ごう突然死
講師 榎橋内科部長

講演2 心臓関連の臨床検査
講師 山口臨床検査技師長

相談コーナー (健康相談・よろず相談・リハビリ相談・栄養相談)

ぜひご参加ください



お問い合わせ 独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 TEL：(059) 378-1321代 FAX：(059) 378-7083

第10回 日本神経病理学会 東海・北陸地方会

とき 平成30年9月1日(土) 10:00~

ところ 国立病院機構鈴鹿病院 第一会議室



曾根 淳
第二脳神経内科医長

名古屋大学附属病院から赴任してまいりました。前任地には16年間在籍し、神経変性疾患の日常診療、遺伝カウンセリングにあたる

とともに、筋萎縮性側索硬化症の基礎研究、および次世代シーケンサーを用いた原因遺伝子探索研究、さらに神経核内封入体病の臨床および遺伝子研究に携わってまいりました。鈴鹿病院では、今までの経験を生かし、病棟での診療、および臨床研究に当たりたいと考えております。よろしくお祈りいたします。



落合 仁
内科医師

出身は愛知県大府市で、学生の頃から岩手県へ移り住み岩手医科大学を卒業しました。大学卒業後は岩手県内の病院で主に消化器系の訪問診療やがん検診の精査などをおこない

数年前にここ東海地方に戻ってきました。鈴鹿病院では、重症心身障がい児者病棟を担当しています。患者さんのケアを通じて以前、乳児検診をしていた頃を思い出します。これまでの経験を生かして患者さんにとって充実した療養生活を送っていただけるよう、周りのスタッフの方々と力を合わせより良い医療の提供をしていきたいと思っています。よろしくお祈りいたします。

新任医師の紹介

introduce our new doctor



加島 さゆみ

1年目で、まだ三重は初めてで、不安と楽しみがいっぱいですが、一生懸命がんばります。よろしくお願いします。



藤井 悠希

笑顔大切に、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



梶原 美佐

不安が大きいです、先輩方や患者さんから学ぶことが多いと思うので、吸収して日々成長していきたいです！



田中 真莉子

4月から看護師1年目として、日々努力して頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



橋本 瑠璃亜

分からないことだらけですが、学習し、先輩方にご指導していただきながらがんばりたいと思います。



中村 真弓

患者さんに愛情を持って看護することを、常に心がけます。



五味 明美

不安だらけですが、精一杯頑張りたいと思います。ご指導宜しくお願い致します。



田中 雄斗

これからお世話になります。早く一人前になれるよう頑張りますので、お願いします。



鈴木 萌

不慣れな部分もあるかと思いますが、一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。



原 沙耶佳

これからよろしくお願いします！正しい知識・技術を身につけ、「安全・安心・安楽」な看護を提供できるよう頑張りたいと思います。



勅使川原 実希

患者様のための看護師でありたいと思っています。生きるお手伝いをさせていただきますよう頑張ります。



遠藤 志拓

患者さんやその家族にとって、拠り所となれるように、知識や技術を体得し、その人に合った看護が行えるように努力していきます。



森 くるみ

新しい環境で働くにあたって不安なこともあります、精一杯頑張りたいと思います。



熊倉 由紀

急性期病院で勤務していましたが、難治性の疾患の看護や非言語的コミュニケーションの勉強をしたいと思い鈴鹿病院に入職しました。よろしくお願いします。



青山 美紀

患者様一人一人に対し誠心誠意向き合い、想いに寄り添ったりハピリを行っていきたくです。日々向上心を持ち、毎日笑顔をもっと頑張ります。



西口 航弥

医療福祉という未経験の分野ではありますが、一日一日を大切にしながら、一つでも多く患者様のお役に立てるように頑張りたいと思います。



日比 夢乃

これからよろしくお願いします。自分の持つ精一杯の力で頑張りたいと思います。



上村 友理恵

早く一人前の薬剤師になれるよう、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いします。



櫻井 若菜

不安なこともたくさんありますが、精一杯頑張ります。よろしくお願いします。



木幡 涼輔

この度新規採用となりました。ここ鈴鹿病院で末永く、ずっと活躍できるよう頑張ります。



杉岡 真衣

一人一人の患者さんとの関わりを大切に、個別性に合った看護が行えるよう頑張りたいと思います。



栗田 名緒子

初めまして！！三重病院からやってきました。半年と短い時間ですが、早く慣れるように頑張ります！！



長谷川 友加

三重病院より異動で参りました。新しい環境に戸惑うことも多いかもしれませんが、早く慣れるようにがんばりますのでよろしくお願いします。



鈴木 里奈

笑顔で頑張ります。よろしくお願いします。



中根 夕布子

三重中央医療センターより異動してまいりました。初めての分野でとても緊張しておりますが、ご指導よろしくお願いします。



下野 亜梨沙

三重中央医療センターから転動で参りました。今まで学んできた分野と全く違う分野ですので、不安は多いですが、1日も早く仕事を覚えたいと思います。また、患者さんやご家族の心に寄り添えるよう、がんばっていきたく思います。


鈴木 俊二 事務部長

この度、静岡医療センターより赴任して参りました鈴木です。出身は静岡県浜松市で、鈴鹿病院と静岡医療センターのほぼ中間の位置になります。鈴鹿病院は病棟建替後に見学させていただいた事が、それ以来となります。

病院理念でもあります「充実した医療と健全な経営」「意識改革」を事務局として 取り組んでいけるよう微力ながら、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。


糸井 通文 庶務班長

静岡医療センターから赴任してまいりました。鈴鹿病院は、新規採用された病院であり、今回13年6か月ぶりの勤務となります。

当時の記憶と比較すると、外来診療棟・中央病棟などの建物やMRIなどの医療機器、電子カルテが整備され、この十数年での病院の急激な発展に驚いておりますが、その一方で、以前からのアットホームな雰囲気は変わっていないなあと感じております。

更なる病院の発展に貢献できるよう微力ではございますが、精一杯頑張っていきたいと思っておりますのでご指導の程よろしくお願いいたします。


高山 茂之 主任理学療法士

この度、三重中央医療センターから赴任してまいりました。

鈴鹿病院では難病医療の拠点病院として、ロボットスーツHALによるリハビリを行っており、HAL、神経難病、筋ジストロフィー、重症心身障がい(児)者分野と、どれも初めての経験となります。微力ではありますが、新鮮な気持ちで精進する所存です。新たな職場でご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



新任者の紹介

introduce our new member


加藤 直美 診療放射線技師長

この度、静岡県の天竜病院より赴任して参りました。

三重県内の国立病院機構施設は、初めてですが、実家は木曾三川を愛知県側に渡った津島市にあり、隣の県ですが、親しみを感じる地域です。

放射線技師長として臨みますが、余り気負わずスタッフのみなさんと鈴鹿病院のため尽力していきたいと思っております。

至らぬ所も多々あると思っておりますが、よろしくお願いいたします。


高木 喜代美 副看護部長

北陸病院より赴任してまいりました。2年ぶりに富山から三重に戻り、見慣れた風景と職員の笑顔と聞きなれた言葉に、ほっと落ち着きます。鈴鹿病院ははじめての勤務ですが整った環境に気持ちも新たにしています。

患者様家族の方には、環境のみならず安心して療養して頂ける看護の提供ができるように努めていきたいと思っております。副看護部長の職はまだまだ勉強中で、今後も精進していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。


藤森 博美 看護師長

三重病院より赴任して参りました。以前、お世話になった鈴鹿病院で再び働けることをとても嬉しく思っています。神経内科病棟に着任しました。

病棟スタッフと共に明るく元気にチーム一丸となって患者様により質の高い看護が提供できるように、精一杯努めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。


横地 有紀 看護師長

三重中央医療センターから赴任して参りました。看護職員の教育を担当する師長を務めさせていただきます。

鈴鹿病院は温かさや安心できる雰囲気があり、そのような環境で働けることを嬉しく思っております。

患者さんの生活を患者さんの視点にたって考え、根拠に基づいたケアを提供できる看護師を目指し、職員と共に努力していきたいと思っております。どうぞ、皆様のご指導、ご協力をお願いいたします。


合田 瞬 看護師長

国立長寿医療センターから赴任して参りました。鈴鹿病院に来るの自体が初めてで緊張しております。それと同時に、患者様や職員の方々との出会いをとても楽しみにしています。

患者様の為になる専門性の高い看護、職員が働きやすい職場環境を作ることができるよう精一杯努めていきたいと思っております。最初はわからないことばかりでご迷惑をお掛けすることも多いとは思いますが、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。


前田 仁子 看護師長

三重中央医療センターから赴任して参りました。重症心身障害児(者)病棟に着任いたしました。

三重中央医療センターでは、急性期看護が主な経験となりますが、鈴鹿病院でしか行えない慢性期における専門的な看護に関われることを嬉しく思っております。

スタッフと共に、よりよい看護が提供できるように尽力していきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。


筒井 紋加 副看護師長

山梨の甲府病院から赴任して参りました。出身は三重県で5年ぶりに三重に戻ってきました。鈴鹿病院の実習でお世話になった患者さんやスタッフの方に久しぶりにお会いでき、とても嬉しく思っております。以前は重症心身障がい(児)者病棟で勤務しており、筋ジストロフィーで働くのは初めてです。患者さんにとってよりよい看護を追求していきたいと思っております。

ご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、精一杯頑張りますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

鈴鹿病院 NEWS

辞令交付式をおこないました

4月2日(月)に辞令交付式を行い、同日付で転出・転入や新規採用となる職員に対して久留院長より辞令を交付しました。

今年度は新規採用となる医師・看護師・その他職員合わせて37名にそれぞれ辞令が交付されました。

辞令を受け取った新規採用者らは「今日からは新社会人として、医療人として気持ちを引き締めて頑張っていきたいです」と意気込みをみせていました。



久留院長より直接辞令が手渡されました



表紙を飾る8名の新規採用看護師(新卒者)たち。桜吹雪舞う春空の下、今年は外来診療棟東側駐車場の大きな桜の木の下で撮影しました。

名誉院長の部屋

名誉院長 小長谷 正明

ライセンスと自動運転

外来で、障害者や認知症、てんかんの患者さんや高齢者の診療を行っている、悩ましいのは自動車運転免許証のことです。

体を動かすための脳・神経システムの異常で、ハンドルやペダルを適切に動かさず、蛇行運転したり、咄嗟の操作ができずに事故を起こす。車や周囲との距離がちゃんと認識できずにぶつかってばかりいる。判断力が悪くて、高速道路を逆走したり、ブレーキとアクセルを踏みまちがえる。中には、脳の前頭葉の障害で心の抑制がきかずに、危険なあおり運転を繰り返す認知症もあります。運転中の痙攣や意識をなくす発作での、悲惨な事故はしばしば報告されています。

だから、そのような患者さんやご家族から、しばしば、このまま運転していていいのだろうかと不安そうに尋ねられます。明らかに無理な場合はNOと言いますが、それほどでもない場合、医者が大丈夫だろうと答えて事故が起こってしまえば、こちらの責任は免れません。で、そのような時は、運転免許証センターなどで、運転適正相談をしてもらうように薦めています。また、手足の障害は無くても、認知症の患者

さんも、適正検査の結果では免許取り消しや停止になります。そして、75歳以上の人の免許更新時には、認知症の簡単検査が義務付けられるようになりました。

しかし、運転するなというのは運転免許証を発行する側の話であり、運転する側、あるいはしなければいけない人の側は単純には割り切れません。患者さんから、運転できる家族もおらず、バスも鉄道も通っていない所なので、車がないと生きていけないと嘆かれます。三重県に多い山の中や海辺の過疎地では、単なる移動どころか、買い物や通院、役所の用事など、生活全般が自動車にかかっているのです。また、運転免許証がないと、職を失うという深刻な話も聞きました。

そういう中で、期待をもたせてくれるのが、自動運転の技術です。しばらく前、少しばかり奮発して新車に変えましたが、驚いたのはオート・クルーズでした。レーダーやカメラで道路や周囲の自動車を把握し、自動調節のアクセルやブレーキで、前の車と一定の車間距離で走り、また、(ハンドルを離しても)車線は維持できるのです。車庫入れ駐車も自動です。それから2、

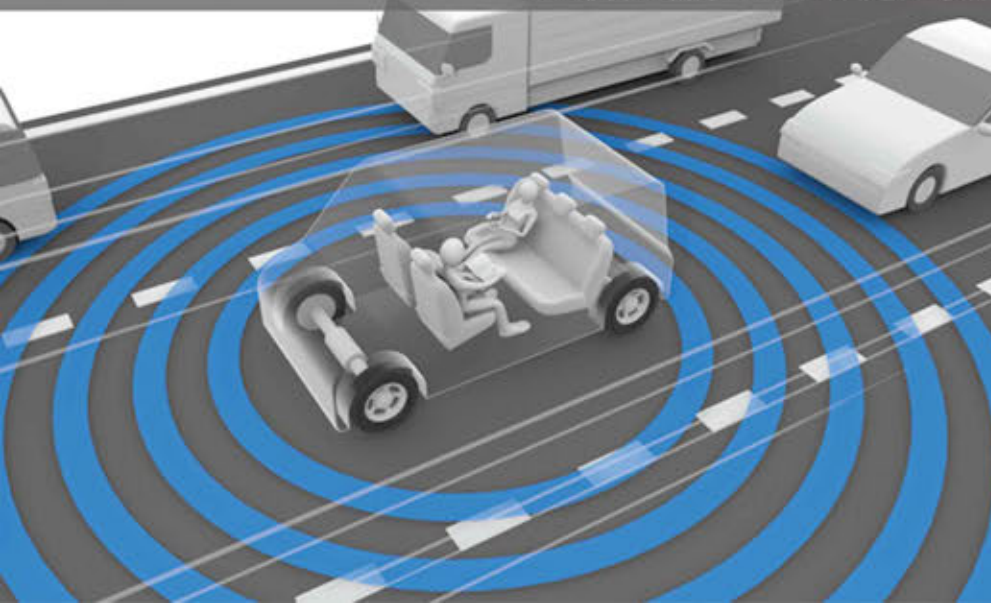


3年もすると、それらの技術は普及し、テレビのコマーシャル当たり前のようにそのような車を宣伝するようになりました。第2段階の自動運転だそうですが、次の段階は、車が自分で車線を選び、信号を見分けるようになり、さらに進むと、目的地を登録するだけで自動車が走ってくれるようになると思います。

実は、我々の脳の中にも、この自動運転のようなシステムがあります。歩こうと思ったり、何か動作をしようと思った時にいちいちこの筋肉を動かし、あの筋肉を休めてなどとは考えはしません。目的に沿って動作になるように、多くの筋肉が時間差や動きの強弱を調整しながら自動的に働いていくのです。また、急に現れた障害物や床の状況などに応じてその動きをコントロールしています。小脳系や錐体外路系という神経のシステムの働きです。これらの障害が、歩くのがふらついたり細かい動作ができなくなる脊髄小脳変性症や、いつもブレーキが掛かっているように動作が遅くなるパーキンソン病になります。

およそ、非常に精緻にできていると思われる人間の脳でも、これらの病気のようにシステムエラーが起こります。AIを駆使して開発されているという自動運転の技術もきっちりとしたものに機械や電子頭脳が事故原因にならないものを作り上げていって欲しいものです。多くの患者さんの福音になるのは言うまでもありません。その頃には後期高齢者に仲間入りしているであろう僕も期待しています。

AIを駆使して開発されている自動運転の技術



地域医療連携室だより

地域医療連携室係長 藤谷 和美

病院の正面入口左に地域医療連携室・医療福祉相談室はあります。当室には、医療社会事業専門員と看護師がおり、入院中の患者さん・家族さん、外来にいられた方々の病気に対する不安や悩み、医療・福祉制度に関することなど、様々なご相談をお受けしています。また、近隣や関連のある医療機関と連携し、地域のニーズを把握すると共に、

当院の専門性や病院機能の発信をしています。

当院は、ALSやパーキンソン病などの神経難病、筋ジストロフィーをはじめ筋肉の病気、重症心身障がい児(者)の医療を中心に慢性期医療を提供しています。特に、筋肉の病気については全国でも有数の療養施設で、本年度よりロボットスーツを導入したりハビリも行っていきます。

在宅医療の拡充に伴い医療従事者には、『病気になっても住み慣れた地域で生活できるよう、入院前からの支援の強化や退院時に地域の関係者と連携して切れ目のない支援をすること』が求められています。その点を踏まえて、神経筋疾患患者さんのレスパイト入院や重症心身障がい児(者)の短期入所、日中一時支援など、関連機関との連携をより一層強化して、地域に根ざした医療の提供を目指していきます。



様々なご相談をお受けしています



正面入口左に部屋があります

昭和・平成スポーツオタクコラム 一番外編

「稀代のスラッガー 落合博満選手」 副院長 スポーツドクター 安間 文彦

「落合監督の黄金時代」の後は、時計の針を平成から昭和に巻き戻し、落合博満選手の20年間をふり返りましょう。

落合選手は、東洋大学・東芝府中を経て、昭和53年に25歳でオリオンズに入団しました。昭和55年、初出場のオールスターゲームでパリーグの4番に抜擢され、昭和57年、60年と61年、三冠王を3度獲得しました(プロ野球記録)。

昭和62年、ドラゴンズに移籍し「4番ファースト 落合博満 背番号6」が、ナゴヤに現れました。「タイトルを3つまとめて取る」と宣言した平成3年シーズンの最終盤、スワローズの古田敦也捕手と首位打者を争いました。3厘差をつけられていた落合選手は、ダブルヘッターで6打数5安打を放ち、古田選手を1厘差で逆転しました。しかし、

古田選手は、次の試合の第一打席でヒットを打ち、残り試合は欠場して打率は0.3398でした。落合選手は、スワローズ最終戦で6打席敬遠され(プロ野球記録)、打率は0.3395となって首位打者を逃しました。しかし、本塁打王(37本)を獲得し、打点は2位(91打点)でした。

平成6年10月8日のシーズン最終戦、ドラゴンズとジャイアンツは同率で並び、ナゴヤ球場で対決しました。この10・8決戦では、シーズン前に移籍した落合選手が先制2ランとタイムリーヒットを打ち、ジャイアンツはドラゴンズを6対3で破りました。そして平成10年、落合選手はファイターズで選手生活を終えました。

昭和、平成と多くの名選手を見てき



落合選手のユニホーム

ましたが、名球会入りの資格をもちながら入会していないのはおそらく落合選手だけです。稀代のスラッガーかつ名将(背番号66)として「落合の前に落合なし、落合の後に落合なし」と思うのです。(通算成績: 2236試合、7627打数、2371安打、打率0.311、打点1564、本塁打510本、首位打者・本塁打王・打点王をそれぞれ5回獲得)。



■ 外来診察担当表 (2018年5月1日現在)

	月	火	水	木	金
脳神経内科	小長谷	酒井 木村	久留 南山	小長谷	久留
内科	野口	落合	安間 (循環器内科)	安間 (循環器内科)	棚橋 (循環器内科)
小児科		予約			予約
整形外科		田中 (装具外来)			田中
リハビリテーション科					田中
皮膚科		予約			
歯科	若林	黒原(午後)		留奥(午後)	
禁煙外来	野口			安間	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越してください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩8分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス 椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



■ 編集後記

梅雨の時期となり、もうすぐ夏を迎えますが今年の夏は全国的に平年より気温が高くなる見込みだそうです。猛暑日が多くなる前に、日よけや緑のカーテンを作るなど事前の対策をしっかりと行なっておきたいものですね。